

NEWS LETTER ニューズレター

生活・総合学習ネットひょうご No.1 平成26年9月14日

巻頭言	…1
＜特集＞	
日本生活科・総合的学習教育学会 第23回大会に参加して	…2
お知らせ	…5



— 巻頭言 —

「ネットひょうご」の始まり

会長 溝邊 和成（兵庫教育大学）

2013年6月に日本生活科・総合的学習教育学会の全国大会が兵庫の地で行われたことがきっかけとなり、2014年3月には、同学会の兵庫県支部を兼ねた生活科・総合的学習の研究会「ネットひょうご」が立ち上がりました。1991年に埼玉の地で行われた第1回全国大会に参加した筆者にとっては、20余年の年月を経てこの地で全国大会が開催されたり、支部結成がなされたりしたことに深く感動致しました。これまでご尽力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

さて、最近では「新しい社会を創造する学びと生活・総合の役割」が注目され、次期学習指導要領改訂の方向性が議論されています。こうした中で、第2期教育振興基本計画（答申）（中央教育審議会、2013）は「教育における多様性の尊重」を基本理念として成熟社会に適合し知識を基盤とした「自立、協働、創造」モデルとしての「生涯学習社会」をつくり上げることを掲げています。そして、「社会を生き抜く力の養成」「未来への飛躍を実現する人材の養成」「学びのセーフティネットの構築」「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」を目標としています。それに向かう「知識基盤社会」も、あらゆる分野で新しい知識・情報・技術の開発・創造・刷新が活発化し、シームレス社会の拡大化が増すことでしょう。

このように特徴付けられる社会を強調して「知識創造社会」と称すれば、そこでは、さまざまな生命の互恵的関係が成立する知識創造がなされなくてはならないと考えます。そして、そのような知識創造社会で求められる力は、個人が満足する問題解決や課題探究ではなく、協同的に働きかけ、自らの個性を提供しつつ、互恵的な判断のもとに取り組む力といえそうです。

このように「互恵的協働解決力」とでも表現できそうな力は、生活科や総合的な学習という学びの場が中核となり、大いに育まれるものと期待しております。今年度スタートを切った「ネットひょうご」の主たるねらいも、上記のような今日的課題に対する実践的・実証的研究を志向しています。加えて、歴史的考察や諸外国との比較的考察等も含む幅広い研究を進め、県内の実践の普及を中心に国内外にも寄与しようと考えています。そのため、研究者・実践者の別を問わず、会員相互の親睦を深めつつ、情報交換や研究発表、講演・研修を中心とした会合など様々な形式の取り組みを予定しております。また県内のご関心のある方々のリクエストに応じていこうと準備を進めているところです。今後とも「ネットひょうご」に対しまして、皆様のご支援とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

第23回埼玉大会を振り返って

「かかわりを深め、新しい社会を創造する学び～学会発祥の地から新たな学びの提案～」

神戸親和女子大学 藤池 安代

第23回埼玉大会「かかわりを深め、新しい社会を創造する学び～学会発祥の地から新たな学びの提案～」に全国各地から八百数十名（大会事務局発表）の方々が参加し白熱した意見交換が行われました。両日とも晴天に恵まれ、上昇していく気温にも負けなない参加者の熱心さの中、進行していきました。

1. 埼玉大会の概要から

[1日目]

◆公開授業と研究協議会

- ・幼稚園会場：埼玉大学教育学部附属幼稚園において3歳児、4歳児、5歳児の保育提案と協議
- ・小学校会場：埼玉大学教育学部附属小学校とさいたま市立仲町小学校の2校から生活科・総合的な学習の授業提案と協議
- ・中学校会場：埼玉大学教育学部附属中学校において総合的な学習の授業提案と協議
- ・自由研究発表会：埼玉大学教育学部附属小学校とさいたま市立仲町小学校において、自由研究協議、32部会96提案
- ・課題研究：埼玉大学教育学部附属小学校において10部会
- ・懇親会会場：パレスホテル大宮において約300名を超える参加者
- ・地域世話人会：パレスホテル大宮において行われ、神戸女子大学 金岩 俊明先生が出席された。

[2日目] 於 大宮ソニックシティ小ホール

[基調講演]

「新しい社会を創造する学びと生活・総合の役割」と題して、白梅学園大学 無藤隆先生より講演いただく。

[シンポジウム]

テーマ「新しい社会を創造する学びと生活・総合の役割」と題して、コーディネーターに文部科学省教

科調査官 田村学先生、シンポジストに文部科学省 常盤豊先生、白梅学園大学 無藤隆先生、関西大学 黒上晴夫先生、埼玉県立総合教育センター 市川篤史先生、川口市立里小学校 山口由美子先生で研究協議を行う。

[閉会行事]

2. シンポジウムの趣旨について

平成25年6月に「第2期教育振興計画」が策定され、「自立・協働・創造に向けた一人一人の主体的な学び」が強調された。

また、一人一人が多様な個性・能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくこと、個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かして、ともに支え合い、高め合い社会に参画すること、さらには、これらを通じてさらなる新たな価値を創造していくことが大切にされている。

これらは、まさに「かかわりを深め、新しい社会を創造する学び」であり、本大会テーマが意図するところでもある。

基調講演では、「新しい社会を創造する学びと生活・総合の役割」と題して、次期学習指導要領の改訂を視野に入れ、生活科・総合的な学習の時間の方向性について講話をいただいた。

シンポジウムでは、自立の基礎を養う生活科、自己の生き方を考えることができるようにする総合的な学習の時間が、「かかわりを深め、新しい社会を創造する学び」を実現するために、どのような改善が必要か、さらに、それを踏まえた上で、次期指導要領改訂の方向性はどうかについて議論を深めていった。「育成すべき資質・能力をめぐって」や、「学びに向かう力とは」、「生活科の課題は」というように具体的な議論や意見交換が行われた。

<第23回埼玉大会に参加して>

さらに熱く！生活科学研究

兵庫教育大学附属小学校 森川 茂樹

23回目を迎える今年度の学会開催地は、埼玉県。全国大会が初めて開催された地であり、自分自身は3度目の学会参加、自由研究発表とあって、自然と気持ちが高ぶる中、当日を迎えた。

会場は、埼玉大学教育学部附属小学校。午前中には公開授業があり、分科会では授業の内容や指導の手立て、子どもたちの姿に至るまで熱い議論が繰り広げられた。参加者もかなり多く、生活科学研究の熱気を肌で感じる事ができた。

午後からは自由研究発表。今回発表したテーマは、「気付きの質を高める表現の工夫」。具体的には、気付きの表出や交流時におけるオノマトペ活用の有効性について研究したものである。オノマトペについては、兵庫教育大学の溝邊教授と共に一昨年からの研究を始め、昨年の学会でも発表をさせていただいた。

ここでも多くの参加者があり、その前で発表できることが素直に嬉しかった。持ち時間は15分だったが、その中で、子どもたちが活用していたオノマトペを季節ごと、事象ごとにまとめたデータを提示しながら、オノマトペが子どもたちの学びに浸透し、気付きをつなぐツールとして役立てられていることを説明した。そして、体験活動や交流を通して子どもたちが気付きを深めていく様子を、実践事例をもとに紹介した。質疑応答や意見交流では、オノマトペの豊かな表現をさらに生かすための方策について課題をいただいたが、オノマトペの有効性は、おおむね賛同していただけたのではないかと感じている。

その後も、課題別研究発表や懇親会に参加させていただき、生活科学研究に向けてのモチベーションを高める意味で、多くの刺激を受ける事ができた。今回の経験を、1/30(金)開催予定の本校研究発表会につなげていくために、さらなる研究を続けていきたいと思う。

<第23回埼玉大会に参加して>

朝から元気な「地域世話人連絡会」の報告

神戸女子大学 金岩 俊明

2日目7時半より、大宮パレスホテルで第16回地域世話人連絡会が開かれた。本会のねらいは、「各地域の取組を交流し、意見交換することで地域における学会活動の活性化を図る」にあった。

各支部からは全体資料(各支部の活動状況と課題)の他に「活動報告・計画」「研究会案内」「支部会報」「規約」など様々な特色ある資料が提出された。

事業部長のあいさつに続き、テーブル毎の小グループでの情報交換に入った。兵庫支部は、近畿・中国・四国のグループで、各府県の先生方と会員確保の状況、個別の活動状況や課題について情報交換を行った。当日は、京都・大阪・広島・徳島の各支部からの有益な情報を頂いたが、どの支部も会員の拡大や独自の支部活動を維持していくために苦勞されていることが報告された。大学教員が中心となり企画や運営を行っても、現場の先生方の参加が少ないと研究活動自体が低調になることが共通の話題となり、支部の実態に基づく工夫が紹介された。

兵庫支部としては昨年度の全国大会のお礼述べ、支部立ち上げの経緯と年間事業計画の概略をお伝えし、課題が山積のため、実績のある支部の先生方からお知恵を拝借したいことを伝えた。また、大阪や京都の支部とは地理的に近いので、連携をとり事業の活性化を図りたいとの話題があったことは、大変有意義であった。少しずつ実現できればありがたい。

文部科学省の田村先生の進行による全体の情報交換や討議では、愛知・静岡・岐阜・新潟・富山の北陸東海の各支部が広域で、共同研究会(9/20.富山)を開催されることがリーフレットにより紹介され、先進的な取組の事例として出席者から質問が相次いでいた。その他、全国大会を積極的に引き受けたいとする支部が現れるなど、田村先生の熱い思いを含めて、生活・総合の研究をより全国規模で発信していく必要があるとの思いが渦巻く会合になった。

＜第23回埼玉大会に参加して＞

基調講演・シンポジウムの報告

兵庫教育大学 松本伸示

基調講演 6月15日(日) 9:15～

演題

「新しい社会を創造する学びと生活・総合の役割」
無藤 隆 (白梅学園大学)

次期学習指導要領の改訂を視野に入れ、生活科・総合的な学習の時間の方向性について以下のような基調講演があった。

1. 学習指導要領の改訂の議論が始まる。

- ・平成26年度秋から指導要領の改訂の議論が始まる。
- ・平成28年度末の告示を目指す。
- ・道徳、小学校英語、小中一貫などの既に議論が始まっている。
- ・日本の学力のV字回復が注目されている

2. 育成すべき資質・能力を巡って

- ・活用力、言語力のさらなる発展を目指す必要がある。
- ・「学ぶに向かう力」といった教科の基盤であり同時に発展を可能にする学習への態度と性向 (Learning Attitude and Disposition) を重視する。

3. 生活科の課題とは

- ・幼児教育の成果を受け、それを小学校で学ぶ力へと転換する中核的教科である。
- ・子どもの学びの総合性を重視し、諸教科のつながりを可能にする。同時に、フィールドから学ぶ力や学んだことを共有し協同して学ぶ力を育てる。
- ・自分たちの学びを振り返り、対話し、先の見通しと作り、目当てを実現するという学びのサイクルを作り出す。
- ・2年間を4期に分けて、その学びの進展と評価を進める。

4. 総合的な学習の課題とは

- ・探究的な活動とそのまとめの活動を通して、教科横断的学力あるいは学びに向かう力・姿勢を育てる。

- ・諸教科と総合的な学習の活動の連関を図る。
- ・地域や専門家から学び、学校の学習を超える学びへと転換する。
- ・2年ごとのカリキュラムを明示し、その指導目標をはっきりさせ、そこで育つ探究力、思考力、まとめる力などをパフォーマンス評価により評価する。
- ・自ら発見し、定式化し、探索し、解決を試みる問題解決の学習活動へと発展させる。

シンポジウム 6月15日(日) 9:50～

コーディネーター

田村 学 (文部科学省教科調査官)

シンポジスト

常磐 豊 (文部科学省)

無藤 隆 (白梅学園大学)

黒上晴夫 (関西大学)

市川篤史 (埼玉県立総合教育センター)

山口由美子 (川口市立里小学校)

テーマ

「新しい社会を創造する学びと生活・総合の役割」

無藤先生の基調講演を受けて同じテーマでシンポジウムが行われた。新しい社会を創造する学びとして、

- ・山口先生より「スタートカリキュラムの充実と自然の不思議さを実感できる生活科の役割の重要性」、
 - ・市川先生より「何を知っているか」から「何が出来るか」の学力観の変更、
 - ・黒上先生より「みんなの役に立つために向上すること、そのためには向上したいということを学ぶことが重要」
 - ・無藤先生より「学びに向かう力を育てるために、つなぐこと、組み合わせること、組み換えることの重要性」
 - ・常磐先生より「幅と深さと言葉と体験」
- 等がキーワードとなるのではないかと。そして、このキーワードを基にした生活・総合的な学習の創造を志向していくことが、これからの課題になるのではないかと提言があった。

会員の授業研究会の お知らせ

本会会員の森川茂樹先生が、生活科の交流会を下記の通り開催されます。会員の皆様、ふるってご参加ください。

1. 日時 平成26年10月17日(金)
13:30～16:00
 2. 場所 兵庫教育大学附属小学校2年2組教室
- 授業公開(5校時 13:35～)
2年2組 指導者:森川 茂樹先生
「秋」に関する単元を公開予定)

●実践交流会

参加者の日々の実践や、授業のアイデア、日頃の悩みなど、様々な視点からの交流会。

講師 兵庫教育大学 溝邊 和成先生

*お問い合わせ

兵庫教育大学附属小学校 森川茂樹先生

e-mail: smori@hyogo-u.ac.jp

生活・総合ひょうごネット

冬季研修会の案内

生活・総合学習ネットひょうごは、冬季研修会を下記の要領で開催致します。特別講演では日本生活科・総合的学習教育学会、副会長の野田敦敬先生にお話頂きます。皆さん、是非、ご参加ください。

記

- 日時 : 12月27日(土) 12:30～16:30
場所 : 兵庫教育大学 神戸ハーバーランドキャンパス(神戸情報文化ビル3階)
- 12:30～13:00 受け付け
13:00～14:00 研究・実践報告

- 14:00～14:20 全体会
14:20～15:20 クリスマス企画
講話「マッチ売りの少女のなぞ」
兵庫教育大学 松本伸示先生
- 15:30～17:00 特別講演
日本生活科・総合的学習教育学会 副会長
愛知教育大学 野田敦敬先生
- 17:30～19:30 忘年会

「生活・総合学習ネットひょうご」への 入会および大会の手続きについて

<目的>

本会は、日本生活科・総合的学習教育学会の兵庫県支部を兼ね、国内外の生活科・総合的学習教育に関する研究を行うとともに県内の実践の発展と普及に努め、会員相互の連絡と協力を促進することを目的とします。

<事業内容>

- 1 生活科・総合的学習教育に関する研究・実践の発表大会
- 2 会員相互の研究・実践発表
- 3 会員の全国大会発表への研究支援
- 4 兵庫県内各種研究会・協議会への支援・協力

年会費は、一般・現職大学院生1,000円、学生500円です。

▷ 入退会連絡先

兵庫教育大学附属小学校 森川茂樹先生

e-mail: naochinkoro20070410@yahoo.co.jp

<事務局> 〒663-8558

西宮市池開町6-46

武庫川女子大学文学部教育学科

藤本勇二

e-mail: yujif@mukogawa-u.ac.jp